

子どもの表情からみえる 子どもたちと先生の関係

6月8、9日にオープン参観日を実施しました。多くの保護者の方に参観いただきました。またここ数年はコロナ禍で地域の方の参観がなかったのですが、今回は15名を超える地域の方の参加があり、子どもたちの様子を観て頂いたのは嬉しいことでした。春川先生の人権講演会を含め多くの地域・保護者の皆様に参加いただきありがとうございました。



また、13日には丹波教育事務所の学校訪問があり、「子どもたちと先生方の関係がいいですね」と話して頂きました。



お家の方の感想には、「子どもたちの考えや自発的な行動、発表を引き出す授業をしてくださっていると感じました」「我が子を含め今まであまり手を挙げて発表することが少なかったお友だちも手を挙げて発表している姿を観ることができました。違っても受け入れてもらえる安心感があるのかなと思いました」など、子どもたちやクラスの成長に加え、校内で大切にし、全職員で取り組んでい



ることを感じていただく機会となったことが嬉しかったです。

また、直接お話し頂いた方々からは「授業がかわってきた」との声を多くいただきました。その要因にはタブレット端末や電子黒板など ICT を積極的に活用した授業や子どもたちが司会進行し学びを創る授業、グループで協働しながら課題を解決する授業などが挙げられます。そんな授業を参観頂きました。



私が環境面でいいなと感じた授業を紹介します。6年生の図工の授業です。プロジェクターで制作のポイントは示していること。調べたいことが出てくれば、各自、自由にタブレットで検索できること。教室の中央に制作に必要なになるであろうと考えられるものは準備をし、自由に利用することができること。



子どもたちが自分の学習をコントロールする自己調整力や自律する力を身につけるためには、子ども自身が学びに向かおうとする環境が大事と考えています。中でも「時間」と「場」を子どもに委ねることや子どもが自己選択できる環境をつくるのが教師にできる支援ではないかなと考えます。

紹介した授業以外にも、先生方が『じりつ（自律・自立）した児童の育成』に向けて子どもたちと楽しみながらいろんな授業に取り組んでいます。これからもそうした取組を紹介していきたいと思います。